



サイエンスアゴラ 2011

新たな科学のタネをまこうー震災からの再生をめざして

みんなのためのサイエンス!

サイエンスは私たち全員の生活に関わっています。
 そうです。
 他人事ではないのです。
 まずはサイエンスの広場に来てみてください。
 楽しい実験工作ブースからシンポジウムまで、
 盛りだくさんの企画が180以上!
 誰でも参加できます。

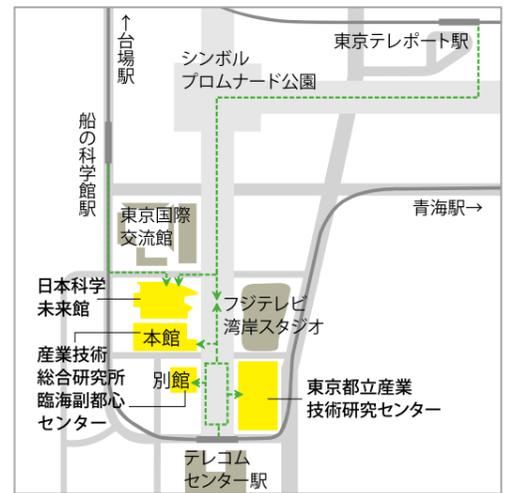
日程:

11/19(土)

11/20(日)

会場:

日本科学未来館、産業技術
 総合研究所臨海副都心セン
 ター、東京都立産業技術研究
 センター(東京・お台場地域)



新交通ゆりかもめ

「テレコムセンター駅」北口 下車 徒歩1分

「船の科学館駅」東口 下車 徒歩5分

東京臨海高速鉄道りんかい線

「東京テレポート駅」下車 徒歩15分

11/18(金) 一部開催

開幕シンポジウム

会場: 国連大学ウ・タント国際会議場

節電・省エネ対策関連シンポジウム

会場: 日本科学未来館 ほか

全日程入場無料



主催: 独立行政法人科学技術振興機構 (JST)

共催: 日本学術会議、独立行政法人産業技術総合研
究所、地方独立行政法人東京都立産業技術研究セン
ター、国際研究交流大学村、東京臨海副都心グループ

協力: 株式会社フジテレビジョン

後援: 内閣府、文部科学省、農林水産省、独立行政法人国立科学
博物館、独立行政法人日本学術振興会、独立行政法人理化学研
究所、独立行政法人宇宙航空研究開発機構、独立行政法人海洋
研究開発機構、大学共同利用機関法人自然科学研究機構国立天
文台、公益財団法人日本科学技術振興財団・科学技術館、プリ
ティッシュ・カウンスル、東京都教育委員会、埼玉県教育委員会、
神奈川県教育委員会、千葉県教育委員会、全国中学校理科教育
研究会、全国科学博物館協議会、全国科学館連携
協議会、公益社団法人日本技術士会

<http://scienceagora.org/>





開幕シンポジウム

「私たちにとって科学技術とは何か
— 震災からの再生をめざして」

11月18日（金）13:30～16:00

国連大学ウ・タント国際会議場

Timetable

13:30	サイエンスアゴラ 2011 開幕宣言	科学技術振興機構理事長 中村道治
	来賓御挨拶	文部科学省（予定）
13:40	基調講演 1	鷲田 清一（前大阪大学総長、大谷大学文学部教授） 「新しい社会のあり方～市民として科学技術とどう向き合えばよいのか」
14:00	基調講演 2	川幡 穂高（東京大学大気海洋研究所教授） 「地球環境と人類圏の行くへ」
14:20	休憩（10分）	
14:30	パネル討論	「震災からの再生をめざして」 ■ パネリスト 最相 葉月（ノンフィクションライター） 大西 隆（日本学術会議会長） 片岡 正俊（東京都立産業技術研究センター理事長） 小林 傳司（大阪大学コミュニケーションデザイン・センター教授） ■ モデレーター 柳下 正治（上智大学大学院地球環境学研究科教授）
16:00	閉会	

開幕シンポジウム登壇者ご紹介（登壇順）

鷺田 清一（わしだ きよかず）

（前大阪大学総長、大谷大学文学部教授）

1977年、京都大学大学院文学研究科哲学専攻博士課程修了。大阪大学教授、副学長等を経て、2007年8月から2011年8月まで同大学総長を務める。現在は大谷大学文学部教授。現象学・身体論から臨床哲学までさまざまなテーマに取り組む。ファッションにも深いこだわりをもつ。『モードの迷宮』（サントリー学芸賞）、『「聴く」ことの力』（桑原武夫学芸賞）ほか著書多数。

川幡 穂高（かわはた ほだか）

（東京大学大気海洋研究所教授）

1984年、東京大学大学院理学系研究科博士課程地質学専攻修了。通商産業省工業技術院地質調査所（現在の産業技術総合研究所地質情報研究部門）等を経て2005年より東京大学大気海洋研究所（当時は海洋研究所）教授。生物圏を含めた現在の地球環境は地球全体の進化の結果であるとの視点から、現在と未来の地球環境問題にも対処していくことを目指している。最新刊の『地球表層環境の進化—先カンブリア時代から近未来まで』ではグローバルなスケールで地球環境の進化を論じている。

最相 葉月（さいしょう はづき）

（ノンフィクションライター）

1963年生まれ。関西学院大学法学部卒。広告会社や出版社勤務などを経て、ノンフィクション作家に。スポーツ、音楽、教育、科学技術と人間の関係など、扱うテーマの幅は広い。『絶対音感』（小学館ノンフィクション大賞）、『いのち 生命科学に言葉はあるか』、『青いバラ』、『ビヨンド・エジソン』、『星新一 —〇〇—話をつくった人』（講談社ノンフィクション賞、大佛次郎賞）、『心のケア—阪神・淡路大震災から東北へ』（共著）などの著書がある。

大西 隆（おおにし たかし）

（日本学術会議会長、東京大学大学院工学系研究科教授）

1948年生まれ。1980年、東京大学大学院工学系研究科博士課程修了（都市工学専攻）。1998年、東京大学先端科学技術研究センター教授（現在も兼任）、2008年より東京大学大学院工学系研究科教授。2011年10月、日本学術会議会長に就任。専門は、都市計画・建築計画、社会システム工学・安全システム。東日本大震災復興構想会議委員、日本計画行政学会会長。

片岡 正俊（かたおか まさとし）

（東京都立産業技術研究センター理事長）

1974年、東京大学工学部計数工学科卒業後、三菱電機に入社し、機械・電気などの自動制御分野の研究開発に従事。2004年、長岡技術科学大学経営情報系教授。都立産業技術研究センター理事（経営企画本部長）を経て、2008年4月より同センター理事長。

小林 傳司（こばやし ただし）

（大阪大学コミュニケーションデザイン・センター教授）

1983年、東京大学大学院理学研究科科学史科学基礎論専攻博士課程修了。専門は科学技術論、科学哲学、コンセンサス会議。福岡教育大学、南山大学を経て、2005年から大阪大学コミュニケーションデザイン・センター教授。市民参加型テクノロジーアセスメントである「コンセンサス会議」を日本に紹介して実施。科学技術社会論学会の初代会長も務めた。『誰が科学技術について考えるのか—コンセンサス会議という実験』、『トランス・サイエンスの時代—科学技術と社会をつなぐ』などの著書がある。

柳下 正治（やぎした まさはる）

（上智大学大学院地球環境学研究科教授）

1971年、東京大学工学部都市工学科卒業。公害問題、環境分野に取り組むことを決意し、厚生省（当時）に入省。環境庁（当時）に移り、国立環境研究所環境研修センター所長、名古屋大学大学院環境学研究科教授を経て、2005年より上智大学大学院地球環境学研究科教授。上智大学環境政策対話研究センター長を兼務。環境政策専攻。科学技術振興機構社会技術研究開発事業において、政策形成対話の促進に関する研究開発プロジェクトを推進。

科学・技術でわかること、 わからないこと

主催：日本学術会議科学と社会委員会
科学力増進分科会

開催日時：2011年11月19日(土)
15時～17時

開催場所：日本科学未来館 7階 会議室2
定員：76名(入退場自由、参加無料)

<プログラム>

1. 開会挨拶

毛利 衛 (日本学術会議連携会員、(独)科学技術振興機構日本科学未来館館長)

室伏きみ子 (日本学術会議第二部会員、お茶の水女子大学理学部・大学院人間文化創成科学研究科教授)

2. 話題提供1

「原子力と放射線のリテラシー」

柴田徳思 (日本学術会議連携会員、日本原子力研究開発研究機構J-PARCセンター 客員研究員)

3. 話題提供2

「健康と医学のリテラシー」

本田孔士 (日本学術会議連携会員、京都大学名誉教授)

4. パネル討論

パネリスト:

毛利 衛 (日本学術会議連携会員、(独)科学技術振興機構日本科学未来館館長)

柴田徳思 (日本学術会議連携会員、日本原子力研究開発研究機構J-PARCセンター 客員研究員)

本田孔士 (日本学術会議連携会員、京都大学名誉教授)

木村茂光 (日本学術会議第一部会員、東京学芸大学教育学部教授)

北原和夫 (日本学術会議特任連携会員、東京理科大学大学院科学教育研究科教授) ほか
コーディネーター兼パネリスト

室伏きみ子 (日本学術会議第二部会員、お茶の水女子大学理学部・大学院人間文化創成科学研究科教授)

5. 閉会挨拶

北原和夫 (日本学術会議特任連携会員、東京理科大学大学院科学教育研究科教授)

<概要>:

科学・技術に「絶対」はないは、科学・技術者にとっては自明のことだが、社会全体としては必ずしも広く浸透しているリテラシーとは言いがたい。今回の大震災、原子力発電所事故が科学・技術に対する不信感を招いているとしたら、行政府、電力業界の情報公開の不手際等に加えて、科学・技術に対する信頼感が裏切られたという人々の思いが大きいことが原因であるかもしれない。では、「科学・技術に絶対はない」という科学リテラシーの基本を社会に周知定着させるにはどうすればよいのだろうか。本セッションでは、大震災から得られた教訓を踏まえて、社会全体の科学リテラシーを高めるために学術会議として今後何を為すべきかを論じる。

mini セルフェスタ

主催：日本学術会議科学と社会委員会科学力増進分科会

開催日時：2011年11月19日(土)～20日(日)

10時～17時

開催場所：日本科学未来館 1階 企画展示ゾーン

参加：無料

企画運営責任者

室伏きみ子(日本学術会議第二部会員、お茶の水女子大学理学部・大学院人間文化
創成科学研究科教授)

私たち生物の体を作っている細胞について、楽しみながら学びます。様々な細胞や細胞内の動きを観察したり、皆さんの頬の細胞からDNAを抽出する実験やDNAの模型作りも行います。皆さんの参加をお待ちしています！